



最上エコポリスの実現  
=豊かな自然 輝くもがみ=

# 小国川だより

最上小国川治水対策について、お知らせします。

## 小さなダム・大きな仕事 最上小国川ダム

第24号

平成22年11月24日発行

山形県 最上総合支庁  
建設部 河川砂防課

### 最上小国川流域環境保全協議会「中間とりまとめ」について

#### 「中間とりまとめ」が支庁長へ報告されました

10月8日(金)に、最上総合支庁特別会議室において、最上小国川流域環境保全協議会の原委員長代理から、「中間とりまとめ」が小松支庁長へ報告されました。

この「中間とりまとめ」は、これまで7回にわたって開催された最上小国川流域環境保全協議会において、環境への影響について議論を深めていただく中で、一定の方向性が見出されたことから、今回とりまとめでいただいたものです。

以下、その内容を紹介します。



原委員長代理(左)が「中間とりまとめ」を小松支庁長へ報告＝支庁・特別会議室

#### 最上小国川流域環境保全協議会中間とりまとめ

県は、最上小国川流域の安全安心を確保するため、河床部に常用洪水吐きを設けた「流水型ダム」等による治水対策を進めている。

最上小国川流域環境保全協議会(以下「環境保全協議会」という。)は、この治水対策を行うにあたり、工事施工に伴う環境保全の進め方について審議することを目的として設置されている。

環境保全協議会は、流水型ダムと地域の特性を踏まえて、環境へ配慮するように、専門的観点から7回にわたり審議を重ねてきた。

環境影響評価法を参考に流水型ダムによる環境への影響について、これまで審議した結果は以下のとおりである。

- ①水環境については、流水型ダムの特性上、平常時は流水や土砂移動への影響が小さいと考えられる。また、洪水時は水の貯留による水温・溶存酸素・水質(富栄養化)は、ダムのない場合とほぼ同様であると考えられる。  
シミュレーションの結果、洪水時における濁りの

濃度及び継続時間において、ダムのない場合と比較し若干の差異が生じる。その差異による魚類(アユ等)の成育や生態に対しての影響は小さいと考えられる。

なお、流水型ダムは全国的にも事例が少ないことから、今後も最新知見等を収集し、水環境への影響に配慮するよう努める。

- ②動植物等については、環境保全措置や配慮事項等による影響の低減が期待される。
- ③付着藻類については、環境保全協議会で審議した検討方針に基づき、継続した調査が必要である。
- ④工事中の騒音・振動については、至近集落と事業実施区域が離れているため、影響は小さいと考えられる。

### 第7回最上小国川流域環境保全協議会について

10月5日(火)午後1時30分から、最上総合支庁講堂において、第7回最上小国川流域環境保全協議会を開催しました。

今回の協議会には11名の委員の方にご出席いただき、主に「第6回協議会における指導事項と対

応」、「平成22年度環境影響調査の中間報告」及びこれまでの協議内容の「中間とりまとめ」等についてご検討いただきました。

以下、検討内容の一部を報告します。

#### 1) 第6回(前回)協議会における指導事項と対応について

##### 【主な指導事項】

- ①付着藻類調査結果についてデータが蓄積されている。データの過不足について確認し、得られたデータからどのように環境影響評価の検討を行うのか、とりまとめを行う段階ではないか。
- ②サシバ(重要種)、クマタカ(陸域上位性)、ヤマセミ(河川域上位性)の各保全措置・配慮事項について、適切である。
- ③アユへの影響を検討する上で、餌をはむ瀬の条件(流速・摩擦速度)がわかると非常に有効である。自然河川におけるアユの忌避行動については研究事例がなく、専門家の意見を伺うほかない。

##### 【対応】

- ➡①今年度調査も含め、データを取りまとめ、環境影響評価の検討を行っていく。
- ➡②環境保全方法に反映していく。
- ➡③既往調査結果や検討結果により、瀬の条件について整理する。また最新知見を入手し、専門家のご意見を伺う等、アユへの影響の検討を引き続き実施していく。

## 2) 平成22年度環境影響調査の中間報告について

### 猛禽類（もうきんるい）調査について

前回の第6回協議会では、4月までの調査結果を報告しましたが、今回は、6、7月に行った調査結果を報告しました。

【クマタカ】

- ① 6、7月の調査で餌運びが確認されなかった。
  - ② 若鳥によるテリトリーへの干渉が確認された。
  - ③ 林内踏査を行ったが、古巣の使用痕跡はなかった。
- 上記の3点から、クマタカAペアについては、今年は繁殖しなかったと推測されたことから、幼鳥の行動観察のための9月調査は、実施しないこととしました。

#### ●専門家の意見

【クマタカ】

Aペアが今年繁殖しなかったのは、Aペアから巣立った若鳥の残留が大きな要因である。

### ヤマセミ調査について

配慮事項対象種であるヤマセミについて、事業実施区域周辺の生息状況と巣の位置を確認するため、6、7月に現地調査を行いました。

【ヤマセミ】

- ① 33回飛翔が確認され、幼鳥の飛翔も確認されました。
- ② 巣穴は8箇所を確認されましたが、全て湛水区域の外でした。なお、巣穴の利用については確認されませんでした。

#### ●専門家の意見

【ヤマセミ】

写真から見て、事業実施区域に近い巣穴は古く、巣穴の付近に木の根が張っているため出入りが困難であり、この巣穴で今後繁殖する可能性は極めて低いと思われる。



### 昆虫類の調査について

配慮事項対象種であるワタナベカレハについて、食樹の分布をもとに生息状況を確認するため、8月にライトトラップ法（※）を用いて、現地調査を行いました。

【ワタナベカレハ】

湛水区域周辺で4個体、湛水区域上流で1個体が確認されました。

※ライトトラップ法（カーテン法）；  
夜間に白布を見通しのよい場所に張り、その前に光源を設置し、誘引された昆虫を採集する方法



#### ●専門家の意見

【ワタナベカレハ】

個体数は平成19年調査の20個体に比較し少ないが、ライトトラップは自然条件に影響されやすく、また、今年は猛暑で昆虫の発生が早まっていたこともあるので、多い・少ないは判断できない。ここに生息していたという事実が重要である。

## 3) これまでの協議内容の「中間とりまとめ」について

「中間とりまとめ」を行うにあたり、第1～6回協議会の協議内容を、ダイジェストで再確認していただきました。その後、「大気環境」「水環境」「動植物」「生態系」「付着藻類」の5項目について審議の

概要をお示しし、委員のご意見を基に「中間とりまとめ」を作成していただき、報告することになりました。

※詳細については、HPを参照してください。

## 最上小国川流域の治水と活性化を考える懇談会について

### 「第3回環境・防災・観光・農林水産の4部会」及び「第3回懇談会」を開催しました

10月15日（金）、20日（水）、21日（木）及び22日（金）に山形市内の自治会館で「第3回環境・防災・観光・農林水産の4部会」を、11月11日（木）に県庁2階講堂で「第3回最上小国川流域の治水と活性化を考える懇談会」を開催しました。

「第3回の4部会」では、「第2回最上小国川流域の治水と活性化を考える懇談会」の各委員の意見要旨、最上小国川流域環境保全協議会の「中間とりまとめ」及び「ダム事業の検証要請とダム検証の状況」等につ

いて報告し、意見交換を行いました。

また、「第3回の懇談会」では、「第2回の懇談会」の各委員の意見要旨、環境保全協議会の「中間とりまとめ」、「ダム事業の検証要請とダム検証の状況」及び「第3回の4部会」の各委員の発言要旨等について、報告しました。

※詳細については、HP等でお知らせする予定です。

発行：山形県 最上総合支庁 建設部 河川砂防課  
最上小国川ダム建設室 佐藤・後藤  
〒996-0002  
山形県新庄市金沢字大道上 2034  
お問合せ先 電話 0233-29-1407  
Email - 【前画面を参考にして下さい。】

バックナンバーは県HPからダウンロードできます。  
アドレスは下記のとおりです。

[http://www.pref.yamagata.jp/regional/mogami\\_bo/news/news/7314074ogunigawa\\_news.html](http://www.pref.yamagata.jp/regional/mogami_bo/news/news/7314074ogunigawa_news.html)